

令和2年度

長崎県公立学校若手第2ステージ研修

(特別支援学校) 実施細目

1 目的

長崎県公立学校若手第2ステージ研修（特別支援学校）は、県立特別支援学校に勤務する本務経験6年目から10年目の教諭等が自己の課題に応じて計画的に研修を行い、プレミドルリーダーとして組織運営に参画する力や学習指導、生徒指導等の専門性を高めることを目的とする。

2 研修の期間

研修期間は、本務経験が6年目に該当する年度の4月1日から10年目に該当する年度の3月末日までとする。

3 研修の内容

校長の指導の下、年度ごとに次の（1）及び（2）に定める研修を実施する。ただし、（1）の研修については、「4 研修の代替」に定めるとおり代替することができる。

（1）センター研修等

自己の課題を踏まえ、以下の研修講座等を各年度1回以上選択して受講する。なお、該当者として以下の研修講座等に参加する場合もセンター研修等を受講したこととしてみなすことができる。

- 県教育センター主催の研修講座、公開講座、セミナー 等
- 教育庁各課・室、人権・同和対策課主催の研修会・説明会（教育課程説明会も含む）
- 文部科学省が主催、共催、委託する研修 等
- 長崎大学教育学部附属特別支援学校での訪問研修（概要は次の通り）

長崎大学教育学部附属特別支援学校での訪問研修

○概要

- 1 自己の課題に応じて授業を参観し、授業づくりや学級経営の在り方等について専門性を高める。
- 2 半日から1日程度の研修とする。
- 3 研修の日時は、研修者が長崎大学教育学部附属特別支援学校に希望日を伝えて調整する。
- 4 旅費は、学校負担とする。

○申込方法

所属長の了解を経て、次の手順で長崎大学教育学部附属特別支援学校に直接申し込む。

- 1 希望日の1か月前までに、電話で受け入れ可能な日を問い合わせる（教頭が窓口）。

【問い合わせ】 TEL：095－845－5646

- 2 申込用紙（様式2）に必要事項を記入し、電子メールまたはFAXで申し込む。

【申込み】 FAX：095－845－0521

E-Mail：nagasakifuyo@ml.nagasaki-u.ac.jp

(2) 校内研修

所属校において、次の①及び②の研修を実施する。

① 授業研修等

研究授業や校内研修の企画・運営等、自己の課題に応じた研修を各年度1回以上計画・実施する。

○授業研修等として考えられる内容

ア 研究授業

- ・学習指導案の様式や内容の検討、授業参観の方法、授業研究会については、学校の実情に応じて工夫を行う。

イ 校内研修の企画運営

- ・校内研修会において、テーマに沿って講師を務める。
- ・校内研修会の企画運営において、外部との交渉や内容検討等、中心的な役割を担う。

ウ 事例に関する協議

- ・校内研修会やケース会議等において、担任する児童生徒の指導について事例報告を行い、他の教諭等から自身の指導について意見や助言を受ける。

② メンター研修

「**メンター研修実施要領**」を参照すること。

4 研修の代替

「3（1）センター研修等」に示すセンター研修等については、以下の講習、研修会及びこれに準じる研修会等に参加することをもって、当該年度の研修に代替することができる。

(1) 免許状更新講習

- ・若手第2ステージ研修の研修期間に受講する免許状更新講習。
- ・2年間にわたって講習を受講した場合は、年度ごとに受講した講習をもって代替することができる。

(2) 研究指定校での研究実践

- ・「3（2）校内研修」の校内研修として実施したもの以外に年間を通して取り組む研究実践等、センター研修等に相当する研修効果があると校長が認めるもの。
- ・研究指定校の研究実践を視察し、校長の指導の下、校内の教職員に伝達するなど、学校に還元することができたと校長が認めるもの。

(3) 各種研究大会の運営・参加

- ・研究大会の運営とは、大会運営上中核的な役割を担っていると校長が認めるもの。
- ・研究大会に参加した場合は、校長の指導の下、校内の教職員に伝達するなど、学校に還元することができたと校長が認めるもの。

5 研修の記録

(1) 研修の報告

- ・当該の教諭等は、各研修後に個人で振り返りを行い、その記録を**若手第2ステージ研修の記録票（様式1）**に記入し、各年度の研修終了後に校長へ提出する。
- ・校長は、成果と課題を聴取した上で助言を行い、返却する。

(2) 記録の保管

- ・**記録票（様式1）**は、当該の教諭等が各自で「学び続ける教師のために」（旧「若手教師の皆さんへ」）とともに保管する。